

---

## 「DPC データベースを用いた、産科出血に対する治療的子宮全摘術の有用性に関する研究：院内の DPC データを用いた妥当性検証」に関するお知らせ

---

このたび、当院で診察を行った患者さんの情報を用いた以下の研究を実施いたします。  
本研究は、総合医療センター研究倫理委員会の承認を得て、病院長による許可のもと行うものです。  
本研究では、患者さんに追加でご負担をお願いすることはありませんが、残余検体やカルテ情報等を使用することに賛成でない場合、あるいはご質問がある場合は、患者さんご自身でもその代理人の方でも結構ですので、問い合わせ先までお申し出ください。お申し出いただいても不利益になることは一切ありません。

### 研究の概要について

#### 1. 研究の対象となる方

2018年04月01日から2022年3月31日の期間に埼玉医科大学総合医療センター総合周産期母子医療センターを受診し、産科出血と診断された患者さんを対象としております。

#### 2. 研究の目的

我々の研究室では、産科出血に対しての子宮全摘術の実施状況を把握するため、全国の急性期病院の治療実施の代表的データベースである、Diagnosis Procedure Combination (DPC)データベースを用いた研究を計画しています。DPCデータベースでは、保険病名や保険処置名の正確性が問題となり、データベースを用いた研究を実施するにあたり、分析に用いるデータが、設定した臨床的な定義と合致し、高い確率でデータベースから同定可能であることが求められます。そのため、当院で上記の治療を行った患者さんの、保険請求上の病名・処置名が妥当であるか否かを検討することで、よりDPC研究の記述疫学研究として信頼性を増すものと考えています。

#### 3. 研究期間

病院長の許可後～2026年03月31日

#### 4. 利用または提供の開始予定日

2023年12月07日

開始予定日以降も研究への利用停止などのお申し出に対応いたします。

### 研究に用いる試料・情報について

#### 1. 試料・情報の内容

産科出血と診断された患者さんの、手術内容、行った処置をDPCデータから収集します。更に、診療録から、実際に行われた手術、処置名を抽出し、その整合性を評価します。

この研究で得られた患者さんの情報は、埼玉医科大学総合医療センターにおいて、研究責任者である松永茂剛が管理いたします。そのため、患者さんのプライバシーが侵害される心配はありません。

この研究により、患者さんご本人に直接の利益は期待できません。また、不利益を被ることも

ありません。

## 2. 試料・情報の取得方法

産科出血と診断された患者さんの検査を実施した際に生じた検査データおよび診療記録等を用います。

## 3. 試料・情報を利用する者（研究実施機関）

- ・ 埼玉医科大学総合医療センター 総合周産期母子医療センター 松永茂剛(研究責任者)
- ・ 埼玉医科大学総合医療センター総合周産期母子医療センター母体胎児部門 中村 永信
- ・ 埼玉医科大学総合医療センター総合周産期母子医療センター母体胎児部門 木島 幸
- ・ 埼玉医科大学総合医療センター総合周産期母子医療センター母体胎児部門 矢部慎一郎
- ・ 埼玉医科大学総合医療センター総合周産期母子医療センター母体胎児部門 江良 澄子
- ・ 埼玉医科大学総合医療センター総合周産期母子医療センター 菊池昭彦
- ・ 埼玉医科大学総合医療センター産婦人科 高井 泰

## 4. 試料・情報の管理責任者

【埼玉医科大学総合医療センター】 病院長 別宮 好文

### お問い合わせについて

ご自身の検体やカルテ情報等を利用されたくない場合、あるいはご質問がある場合には、以下の連絡先までご連絡ください。

利用されたくない旨のご連絡をいただいた場合は、研究に用いられることはありません。

ただし、ご連絡いただいた時点で、既に研究結果が論文などで公表されていた場合、結果などを廃棄することができないことがありますので、ご了承ください。

埼玉医科大学総合医療センター 総合周産期母子医療センター 松永茂剛

住所：〒350-8550 埼玉県川越市鴨田 1981

電話：049-228-3681（土日祝日を除く 8：30～17：30）

○研究課題名：DPC データベースを用いた、産科出血に対する治療的子宮全摘術の有用性に関する研究：院内のDPC データを用いた妥当性検証

○研究責任者：埼玉医科大学総合医療センター 産婦人科 松永茂剛